届け 世界の果てまでも

令和４年４月１９日　Ｎｏ．４　文責　校長　飯久保一男

子どもの話を聞くゆとり

新年度の３週目です。いくつもの保育園・幼稚園から入学した１年生，クラス替えのあった３・５年生は新しい人間関係ができているところでしょうか。２・４・６年生も含め，本校の全ての子どもが，新しい学習や活動が始まったばかりです。この切り替えの時期は，子どもたちにとって，成長のチャンスであり，自分を進化させる（変える）チャンスでもあると思います。親にとっても，子どもへの対応を一歩進めるチャンスでもあると思います。　…急に対応を大きく変えると，困るのは子どもですが。

「どう，新しいクラスは？」「新しい担任の先生はどんな感じ？」こんな声かけがあるのではないかと思います。今年度も家庭訪問に代えて，個別懇談をする旨を先日お知らせしました。年度のはじめに保護者と担任が，子どものことを対面で理解し合うことや，保護者の考え，担任の方針などの話をすることは大切なことだと思います。保護者と学校（担任）が理解し合って，同じ方向で子どもを指導・支援していくことで，教育の効果はより大きくなります。もちろん個別懇談まで待つ必要はなく，子どもの話の中で，子どもの様子を見て，気になるようなことは担任・学校までお伝えください。

そのことでお願いです。担任や学校に伝える前に，まず，子どもの話をよく聞いてほしいということです。その上で，わからないこと，気になること，伝えておいた方がいいことなどは，ぜひお伝えください。

以前勤務した学校での話です。　（昨年度に掲載した内容の再掲です）

放課後，職員室へ低学年の保護者がやってきました。（※コロナ前の話です）

「今日の給食のデザートを配膳室で食べさせられたと子どもが言うのですが，どういうことですか！」

相当お怒りの様子でした。なぜか担任にはこのことは言わないでほしいとも言われました。怒りが収まらないようでしたが，担任に話を聞かないと事実が確認できないので，担任に話すことの承諾を得て，後ほど連絡を差し上げるからと，そのときはお帰り願いました。その日の給食のデザートはカップに入った市販のゼリーでした。担任や配膳室にいた教職員に事実を確認すると，

【担任 談】その子は給食中おしゃべりに夢中になって，食べるのが遅くなり，給食の時間内にゼリーに手を付けられず食べられなかった。時間になったので手を付けていないけれど片付けるように指示をした。

【配膳室にいた教職員 談】その子は給食当番だったので片付けに来た。そこにいた教職員にゼリーを食べる時間がなかったので，それを食べたいと言ってきた。言われた教職員は軽い気持ちで「もったいないから食べちゃいな」と伝え，そのクラスでゼリーを残したのが１人であること，残っているのがその子の分であることを確認した。その残っていた１つのゼリーをその子はその場（配膳室）でペロリと食べた。

ということでした。複数の教職員が言っていることが同じでしたので，これが事実だと思われました。この子は，このことを家に帰って保護者に「今日ね，給食のゼリーを配膳室で食べたんだよ」などと伝えたのだと思います。この子のこのような言葉（だけ）で，この保護者は学校にやってきたのだと思われました。

保護者には事実をお伝えし，配膳室で食べたことについては問題があったことをお詫びしました。担任はじめ教職員には教室で時間内に食べ切る指導をするように指導をしました。

この保護者が「えっ，デザートを配膳室で食べさせられたの？ どういうこと！」とすぐに怒りモードにならずに，「どうして配膳室で食べることになったの？」と子どもに聞く「ゆとり」があれば，学校に来ることはなかったのかなと思うのです。子どもによっては，自分に都合の悪いことや親に叱られそうなことは話さない子もいます。この子に「どうして配膳室で…」と質問をすれば，時間がなくて食べ切れなかったと言うかもしれません。それに対して「そんなに食べる時間が短いの？」「食べ切れなかったのはあなただけなの？」と聞いていくと，「給食中におしゃべりをしていて食べ切れなかった…。」と話をするかもしれません。

また，子どもの話でだけではなく，他から偏って伝わっていたり，誤って伝わっていたりする情報により，お怒りになって話をしにこられたり，電話をしてこられたりする方もいます。こういう場合，事実を話すことで，納得してもらえることがほとんどです。また，その状況を客観的な視点で話をすると，逆に，子どもが迷惑をかけて申し訳なかったなどとなることさえあります。

お忙しいとは思いますが，子どもや他の方からの話の中で，教職員の言動などについて，おかしいのではないかと思われるときには，まずは，子どもの話をよく聞いてみてください。教職員はそんな理不尽なことは言ったりしたりしていないはずです。よく聞いてみると「それはあなた（たち）が悪いでしょ。先生が〇〇（教職員の言動）なのは当たり前じゃないの。」などとなることが普通ではないかと思います。

しかし，子どもが納得していない，または，保護者が腑に落ちないという場合は，担任や教頭（学校の窓口は教頭にしています）に，お尋ねください。子どもの主観的な話や，また聞きでなく，教職員の把握している事実を客観的に伝えることができます。さらにそれをきっかけに，保護者と教職員で，子どもをどう理解し，どう指導・支援していくかという話もできると思っています。

◆◆◆◆◆◆◆　　◆◆◆◆◆◆◆

おまけです

ばーばと電話をしていた息子でしたが，
「今，おやつ食べてるんだよ。ばーばにもあげるね！」
と，受話器のスピーカー部分にカステラを詰めていました。
受話器の小さな穴にカステラを詰められ，掃除が大変でしたが
ばーばにもあげようとするその優しさに母は感動です。

私がこたつで座ってるところに小４の娘がやってきて
ダッシュでどこかに行ったなと思っていたら，黒マジックを手に戻ってきた。
私の頭に白髪を発見してマジックで塗ってくれようとしたみたい。
でも，そんなんじゃ黒くなれへんわ…。

私が頭痛で横になっていたときのことです。
娘が私のおでこにそっと絆創膏を貼ってくれました。
不思議なことに頭痛が治まりました。